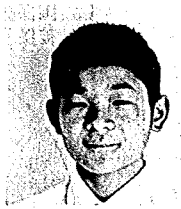
人の道 親がつくって 子が歩く

健全育成標語に四百点の応募

山口辰次さん


高野茂一くん

長沢真理子ちゃん

さきごろ、青少年対策推進委員会で募集した「青少年健全育成標語」の入選者が決まりました。入選者とその作品は左のとおりです。

現在、市内全地区で青少年対策推進委員会が結成されており、地域ぐるみで〝青少年を正しく伸ばそう〟という気運が盛り上がっています。この熱意を反映してか、応募点数も小学生の部で百十六点、中学生の部で百三十七点、高校、一般の部で百四十六点と全部で三百九十九点もの多数の作品が寄せられました。小学生の、中学生の、高校生の、そして大人のそれぞれの立場から作られた力作ぞろいだけに審査に当たった人たちも苦労されていたようです。

なおこの入選作品は、十五日の「国際児童年記念新津市中央大会」で発表され、入選者にはそれぞれ記念品が贈られ、表彰されました。

＊　＊　＊

また「中央大会」では、国際児童年に関する「親と子の意見発表」なども行われましたが、くわしくは次号でお知らせする予定です。

入選作品

小学生の部

市長賞
むだづかい　それがあぶない　だい一歩
小屋場　長沢真理子

議長賞
なやみごと　何でも話そう　父母に
大鹿　本望　輝行

教育委員会賞
親も子も　意見を出し合う　明るい家庭
金沢町四　伊藤　幸恵

中学生の部

市長賞
父が待ち　母が迎える　我が家庭
柄目木　高野　茂一

議長賞
気をつけろ　甘い言葉や　誘惑に
金沢町一　川上　康

教育委員会賞
まごころで　むすぼうわが友　わが心
小口　松田　近子

高校生の部

該当作品なし

一般の部

市長賞
人の道　親がつくって　子が歩く
本町三　山口　辰次

議長賞
目をはなすまい　子どもの持物　遊び方
大蔵　深井　ミキ

教育委員会賞
耐えてこそ　伸びる明るい　朝がある
山谷町二　吉沢伊三郎

明るい家庭づくり12章

第5章　約束を守る家庭に明るい子

1. 約束を守ることは、誠実で明るい子どもを育てる基礎です。
2. うそのない子どもは約束を守る家庭の中で育ちます。
3. 守れないことは、はっきり言って納得させましょう。

第6章　物よりも心を与えてよい子にし

1. 愛情を物や金で代用することはやめましょう。
2. 子どもと楽しいプログラムを持ちましょう。
3. 不相応なこづかいは持たせないようにしましょう。

お買物、ご用命は市内で

表具
鈴木一心堂
一級技能士 訓練指導員 鈴木正義　本町3☎2-2035

家庭用水冷井戸
クーラー無料診断
水井戸＋モーターポンプ＋クーラー＝一式
工事も引受けます
阿賀鑿泉　新津市下興野20～9　TEL(4)1047

交通安全母の会大会＊幼児からの安全教育を

小学生も〝提言〟

6月27日、市民会館で「新津市交通安全母の会大会」が開かれました。〝幼児からの人づくり運動の推進〟を大会スローガンに、400人近くのお母さん方が集まって交通安全について考えあいました。

なおこの大会では、次の3人の小学生から交通安全に関する〝提言〟も行われました。提言は、樺沢直子さん（一小6年）の「私たちのお手本になってください」、稲垣修君（一小6年）の「車のスピード」、須藤明子さん（三小6年）の「交通安全に思うこと」です。このうち、樺沢さんの提言を左にご紹介しましょう。

私たちのお手本になってください

第一小学校六年二組　樺沢直子

「交通事故にあわないように、気をつけなさい」

どこへ出かけるにも、口ぐせのように、母に言われます。

その母が、

「今日、びっくりしたわ。もう少しで、車とぶつかるところだったよ」

と、買い物から帰って来ました。（人に、いつも言うくせに……）ふてくされて、母の顔を、じっと見つめていました。

私は、交通について、大人のみなさんに言いたいことが、二つあります。

一つは、荷物のことです。自転車の後ろ、ハンドル、かごの中、自分の手などに、買った物などを多くつけているのです。あぶなっかしげに、自転車に乗っているようすは、どうも気にいりません。

友達の家からの帰り道でした。

「ジグザグ運転はだめだよ」

と、だれかに注意されて、後ろを見ると、知らない人です。つい、いい気になって、自転車を運転してしまいました。

でも、注意したその人も、荷物を手にいっぱい持って、ふらふらになりながら、自転車を運転していました。

「やあだ。人のこと言えるのかな」

その人は、聞こえないふりをして、さっさと行ってしまいました。

もう一つは、自転車の二人乗りのことです。明子さんと二人乗りをしながら遊んでいた時でした。

「危いから、二人乗りはしないのよ」

と、注意されたことがありました。

ところが、次の日、注意してくれたその人が、バイクに乗っているところに出会いました。前の方には、いすをつけて三歳ぐらいの子供を乗せ、後ろには、四歳ぐらいの子供を乗せ、背中には、赤ちゃんをおぶい、合計四人乗りをしています。

「わあ、あの人四人乗りだ。すごーい」

ちょうど、母もいて、四人乗りの姿におどろいていました。

このように、大人のみなさんは、私達に注意をしますが、自分も、危いことを平気でしているのです。

『口さきばっかりではいけない』と、先生がよくおっしゃいます。そのとおりです。言うのは簡単だけれど、実行するのはむずかしいなあと、ようくわかりました。

私達は、いつも見ています。交通事故をなくすためには、大人のみなさんが、子供のお手本になってほしいと思います。

「大人のみなさん、私達のお手本になってください。お願いします」

夏休みを安全に楽しく

もうすぐ夏休み。学校を中心とした規則的な生活から解放されるために、せっかく身についた交通安全ルールも、とかく忘れがちです。例年、夏休み中に交通事故にあう子どもが増えるのもそのためです。

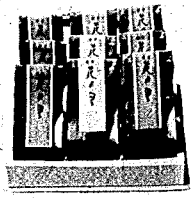
元気に二学期を迎えることができるように、お母さん方は次の点に十分注意してください。

▼子どもは一つのことに熱中すると、周りのことが目に入りません。道路を歩くときは、子どもの手を握って離さないように。

▼子どもは大人のまねをします。子どもの前ではちょっとしたルール違反も禁物。

▼抽象的な言葉よりも、具体的なケースを取り上げて指導を…。

▼レジャー先など初めて通る道ではまごつきます。特に注意しましょう。

お買物、ご用命は市内で

新製品紹介．夏の味覚ゼーリーで!!
涼菓　花の里
さつきの町、にいつを梅・野苺などで花の香りを表現してみました。… 1ケ120円
にいつ　ホーサカヤ　TEL2-0112